

リニアレン 10

安全データシート

作成日:2002/03/12
改訂日:2024/12/03
整理番号:LINEALENE_10_JP05(JP)_20241203

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : リニアレン 10
整理番号 : LINEALENE_10_JP05(JP)_20241203
推奨用途及び使用上の制限
推奨用途 : 合成原料、重合原料、原材料、化学用原料
使用上の制限 : 工業用途のみとし、所定用途以外には使用しないこと。

会社情報

製造業者

出光興産株式会社
〒100-8321
東京都千代田区大手町一丁目 2 番 1 号
電話 0120-132-015

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 : 0120-015-230 (NCEC)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	引火性液体	区分 3
健康有害性	皮膚腐食性/刺激性	区分 2
	誤えん有害性	区分 1
環境有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分 1

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP) : 危険
危険有害性 (GHS JP) : 引火性液体及び蒸気 (H226)
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ (H304)
皮膚刺激 (H315)
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性 (H410)

注意書き (GHS JP)

安全対策 : 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
容器を密閉しておくこと。(P233)
容器を接地しアースをとること。(P240)
防爆型の電気、換気、照明機器を使用すること。(P241)
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
環境への放出を避けること。(P273)
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。(P280)

応急措置 : 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)
皮膚 (又は髪) に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)
特別な処置が必要である (このラベルの注意書きを見よ)。(P321)

リニアレン 10

改訂日: 2024/12/03

無理に吐かせないこと。(P331)
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P332+P313)
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
火災の場合: 消火するために適切な消火器具を使用すること。(P370+P378)
漏出物を回収すること。(P391)

保管: 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
施錠して保管すること。(P405)

廃棄: 内容物、容器を国、都道府県、市町村の規則に従った場所に廃棄すること。(P501)
処理時の追加危険有害性: 残留蒸気は引火性であるため、空の容器の取り扱いには注意する。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 物質
化学名: 1-デセン (1-decene)
IUPAC 名: dec-1-ene
別名: デカ-1-エン (Dec-1-ene)
Decene, 1-

化学物質名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
1-デセン	> 99*	C ₁₀ H ₂₀	(2)-27	既存	872-05-9

* C₁₀H₂₀ として

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般: 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
気分が悪い場合は医師の診察を受ける(可能であればラベルを見せる)。
直ちに医師の診察を受ける。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
新鮮な空気を吸入させる。
被災者を休息させる。

皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断、手当てを受けること。
特別な処置が必要である(このラベルの注意書きを見よ)。
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。

眼に入った場合: 直ちに大量の水ですすぐ。
痛みや発赤が続く場合は医師の診察を受ける。
予防措置として水で眼を洗う。

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。
直ちに医師に連絡すること。
直ちに医師の診察を受ける。

応急措置をする者の保護に: 適切な保護具を着用して作業する。
必要な注意事項

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状・損傷 皮膚に付着した場合: 皮膚刺激。

- 症状・損傷 飲み込んだ場合 : 刺激性。
: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
肺水腫のリスク。

医師に対する特別な注意事項

- 医師に対する特別な注意事項 : 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 砂、水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
火災時の特有の危険有害性 : 引火性液体及び蒸気。
爆発の危険 : 蒸気は空気と爆発性混合物を形成する。
加熱すると爆発することがある。
引火性・爆発性蒸気-空気混合物を形成することがある。
火災時の反応性 : 燃焼によって有毒ガスを生成する。
一酸化炭素、二酸化炭素(CO and CO2)。
火災時の危険有害性分解生成物 : 有毒な煙を放出する可能性がある。
特有の消火方法 : 火災周辺は関係者以外立ち入り禁止とする。
周辺火災の場合に、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
消火時の保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : あらゆる発火源を取り除く。
静電気を避けるため、特別な予防措置を取る。
裸火禁止。禁煙。

非緊急対応者

- 応急処置 : 漏出エリアを換気する。
不要な職員を退避させる。
裸火、火花禁止、禁煙。
皮膚、眼との接触を避ける。

緊急対応者

- 保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
清掃職員に適切な保護具を支給する。
詳細については、第8項の「ばく露制御/個人保護」を参照。
応急処置 : エリアを換気する。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。
液体が下水道や公共用水域に流入した場合、行政に通知する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法 : 漏出物を回収すること。
浄化方法 : 吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。

- 粘土あるいは珪藻土のような不活性な固体を使って、できるだけ早く、拡散した製品を吸収する。
- 漏出物を回収すること。
- 他の物質から離して保管すること。
- 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
- 二次災害の防止策 : 排水溝または水路への侵入を防ぐ。
- 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
- その他の情報 : 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : データなし
- 安全取扱注意事項 : 作業所の十分な換気を確保する。
- 飲食前、喫煙前、または作業終了後は、手および汚染エリアをマイルドソープと水で洗浄する。
- 作業エリアでは十分な換気を行い蒸気の発生を予防する。
- 裸火禁止。禁煙。
- 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
- 容器を接地すること。アースをとること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- 引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。
- 防爆型装置を使用する。
- 個人用保護具を着用する。
- 皮膚、眼との接触を避ける。
- 接触回避 : データなし
- 衛生対策 : 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 製品取扱い後には必ず手を洗う。
- 処理時の追加危険有害性 : 残留蒸気は引火性であるため、空の容器の取り扱いには注意する。

保管

- 安全な保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。
- 涼しいところに置くこと。
- 容器を密閉しておくこと。
- 施錠して保管すること。
- 技術的対策 : 適切なアースを設置し静電気の蓄積を避ける。
- 防爆型の電気、換気、照明機器を使用すること。
- 容器を接地すること。アースをとること。
- 混触禁止製品 : 強塩基。強酸。
- 混触禁止物質 : 発火源。直射日光。熱源。
- 熱及び発火源 : 火花や着火源から遠ざけて保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 (厚生労働省)	設定なし
--------------	------

リニアレン 10

改訂日: 2024/12/03

許容値濃度 (日本産業衛生学会)	設定なし
設備対策	: 作業所の十分な換気を確保する。
保護具	
個人用保護具	: 不必要なばく露を避ける。
呼吸用保護具	: [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	: 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。適切な保護手袋
眼及び/又は顔面の保護具	: 化学用ゴーグルまたは安全眼鏡、安全メガネ
皮膚及び身体の保護具	: 適切な保護衣を着用する。
環境へのばく露の制限と監視	: 環境への放出を避けること。
その他の情報	: 使用中は飲食禁止かつ禁煙

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
外観	: 無色透明液体
分子量	: 140.26 g/mol
色	: 無色
臭い	: 炭化水素臭
pH	: データなし
融点	: -66.3 °C (ECHA data; LOLI)
凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 174.3 °C
引火点	: 45 °C (タグ密閉式)
自然発火点	: 235 °C (ECHA data; LOLI)
分解温度	: データなし
可燃性	: 引火性液体及び蒸気
蒸気圧	: 147 Pa (at 20 °C)
相対蒸気密度 (20 °C)	: 4.84 (LOLI)
密度	: 0.741 g/cm ³ (at 20°C)
溶解度	: 水に不溶 水: 310 µg/L (at 25 °C; ECHA data)
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	: 5.12 (at 20°C; ECHA data)
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: 0.5 - 5.4 vol % (ISCS, ILO)
粘性率	: 0.628 mPa·s (at 40 °C; Renzo(3rd, 1986))
動粘性率	: 0.848 mm ² /s (calculated; at 40 °C)
粒子サイズ	: データなし
粒径分布	: データなし
粒子形状	: データなし
粒子アスペクト比	: データなし
粒子比表面積	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 引火性液体及び蒸気。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。

リニアレノ 10

改訂日: 2024/12/03

- 避けるべき条件 : 高温面との接触を避ける。;熱;炎や火花の禁止発火源をすべて断つ。
混触危険物質 : 強酸。酸化剤。強塩基。
危険有害な分解生成物 : ヒューム。一酸化炭素。二酸化炭素。引火性ガスを放出することがある。

11. 有害性情報

- 急性毒性 (経口) : ラットのLD50値 >10 g/kg (SIDS (Access on June 2010))に基づき、「区分に該当しない」とした。他に2000 mg/kg, Category 5 based on GHS Criteria(ECHA data) とのデータもある。
急性毒性 (経皮) : ウサギのLD50値 >10 g/kg (SIDS (Access on June 2010))に基づき、「区分に該当しない」とした。
急性毒性 (吸入) : 区分に該当しない(分類対象外) (気体)
区分に該当しない(蒸気)
分類できない (ミスト)
急性毒性 (吸入:気体) : GHSの定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気) : ラットのLC50値として>320 ppm/1h (>160 ppm/4h) (SIDS (Access on June 2010))の外に、4時間ばく露で飽和蒸気圧濃度 (12.6 mg/L) を超える (SIDS (Access on June 2010)) と報告されている。他に46.3 mg/L (6h air, ECHA data)との報告があり、「区分に該当しない」とした。
急性毒性 (吸入:ミスト) : データなし。
皮膚腐食性/刺激性 : ウサギを用いたDraize試験 (OECD TG404, GLP 準拠)で紅斑/痂皮形成および浮腫の平均スコアはそれぞれ2.0および1.7であり、皮膚一次刺激指数 (PII) は3.67であった (SIDS (Access on June 2010)) ことから「区分2」とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : ウサギを用いたDraize試験で刺激性スコアが全て0であり、刺激性なし (non-irritating) との結果 (SIDS (Access on June 2010)) により「区分に該当しない」とした。なお、ヒトで高濃度の蒸気ばく露後、眼に刺激を起こすおそれがあると記載されている (HSDB (2002))
呼吸器感作性 : 区分に該当しない。感作性なし (ECHA data)
皮膚感作性 : 区分に該当しない。感作性なし (ECHA data)
生殖細胞変異原性 : 分類できない
in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro 試験ではエームス試験で陰性の報告 (SIDS (Access on June 2010)) がある。
発がん性 : 分類できない。データなし。
生殖毒性 : 分類できない(データ不十分)
Fertility— Oral route: Adverse effect observed NOAEL 300mg/kg bw/day (subchronic, rat); Development toxicity—Oral route: No adverse effect observed NOAEL 1000 mg/kg bw/day(subchronic, rat) (ECHA data) との報告がある
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 分類できない
ラットに10000 mg/kgを経口投与により毒性症状はなく、LD50は10000 mg/kg超と報告され (SIDS (Access on June 2010))、ウサギに10000 mg/kgを経皮投与した場合の所見には局所の脱毛と皮膚障害のみで全身性の影響については記載がなく、LD50は10000 mg/kg超と報告されている (SIDS (Access on June 2010))。これらの報告から経口および経皮投与では区分外に相当すると判断されるが、吸入についてはガイダンス値範囲に相当する飽和蒸気圧濃度で明らかな影響は認められていない (SIDS (Access on June 2010)) が、ガイダンス値範囲を超えた濃度での影響についてはデータがなく不明である。したがって、本項目の分類としては「分類できない」とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 以下のデータから「区分に該当しない」とした

1-デセン (872-05-9)	
NOAEL (経口、ラット、90日)	500 - 1000 mg/kg bodyweight/day (ECHA data)
NOAEC (吸入、ラット、ガス、90日)	3000 ppmv/6h/day (ECHA data)

リニアレン 10

改訂日: 2024/12/03

誤えん有害性 : 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
本物質の 40°C の動粘性率は 0.84 mm²/s (粘度: 0.628 mPa·s (Renzo (3rd, 1986))、密度: 0.741 g/cm³ (Lide (90th, 2009))) であり、動粘性率が 20.5 mm²/s 以下の炭化水素に該当するため「区分 1」とした。なお、ヒトが摂取した場合、嘔吐が起きると容易に肺に吸引されるという化学性肺炎のリスクが記載されている (SIDS (Access on June 2010))。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期 (急性) : 水生生物に非常に強い毒性
水生環境有害性 長期 (慢性) : 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
その他の情報 : 環境への放出を避けること。

1-デセン (872-05-9)	
LC50 魚 1	> 1.5 mg/L (Exposure time: 96 h - Species: Oncorhynchus mykiss [daily renewal]) (ECHA)
LC50 魚 2	0.0034 - 6.6 mg/L (4 days, ECHA data)
EC50 ミジンコ 1	0.048 ppm (US EPA, EPIWIN/ECOSAR (8/99), OPPT/RAD/ECAB)
EC50 ミジンコ 2	0.0028 - 4.4 mg/L (48 h, ECHA data)
EC50 他の水生生物 1	74 mg/L (Garforth, B., OLeifiins 103 PQ11, Sittingborne report 83.359, 1983)
EC50 72h 藻類 1	0.0009 - 1.8 mg/L (ECHA data)
EC50 96h 藻類 (1)	22 mg/L [Pseudokirchneriella]
EC50 96h 藻類 (2)	0.037 mg/L (US EPA, EPIWIN/ECOSAR (8/99), OPPT/RAD/ECAB)
NOEC (慢性)	0.113 mg/L (14 days, US EPA, EPIWIN/ECOSAR (8/99), OPPT/RAD/ECAB)
NOEC 甲殻類 慢性	0.0194 mg/L (21 days, ECHA data)
NOEC 藻類 慢性	0.23-1.8 ug/L (ECHA data)
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	5.12 (at 20 ° C; ECHA data)

残留性・分解性

1-デセン (872-05-9)	
生分解性	100 % (ECHA data)

生体蓄積性

1-デセン (872-05-9)	
生体蓄積性	データなし。
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	5.12 (at 20 ° C; ECHA data)

土壌中の移動性

1-デセン (872-05-9)	
土壌中の移動性	データなし。
生態系 - 土壌	データなし。

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない
その他の有害な影響 : 追加情報なし

リニアレン 10

改訂日: 2024/12/03

13. 廃棄上の注意

- 推奨製品/梱包処分 : 国、地域の規制に準拠して廃棄する。
内容物、容器を国、都道府県、市町村の規則に従った場所に廃棄すること。
- 廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物/容器を破棄する。
- 残余廃棄物 : 環境への放出を避けること。
毒性により危険有害廃棄物。
- 汚染容器及び包装 : 現行の法律、規制、指令に準拠する。
- 地域の廃棄規則 : 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
- 追加情報 : 残留蒸気は引火性であるため、空の容器の取り扱いには注意する。
引火性蒸気が容器内に蓄積することがある。

14. 輸送上の注意

国際規制

道路輸送 (UN RTDG)	海上輸送 (IMDG)	航空輸送 (IATA)
国連番号		
1993	1993	1993
国連正式品名		
その他の引火性液体（他の危険性を有しないもの）	FLAMMABLE LIQUID, N. O. S.	FLAMMABLE LIQUID, N. O. S.
輸送危険物分類		
3	3	3
		
容器等級		
III	III	III
環境有害性		
環境有害性 : 該当	環境有害性 : 該当 海洋汚染物質 : 該当	環境有害性 : 該当

海洋汚染物質 : 該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

- IBC コード製品名 : Decene
船種 : タイプ 2
汚染物質カテゴリ : X

国内規制

- 海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号 : 128
その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

- 労働安全衛生法 : 危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号）
その他の引火点30℃以上65℃未満のもの

	名称等を表示すべき有害物（法第57条、施行令第18条） （デカー1-エン97%）（令和7年4月1日以降）
	名称等を通知すべき有害物（法第57条の2、施行令第18条の2） （デカー1-エン97%）（令和7年4月1日以降）
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1・第4類）
海洋汚染防止法	: 有害液体物質（X類物質）（施行令別表第1）
船舶安全法	: 引火性液体類（危規則第2, 3条危険物告示別表第1）
航空法	: 引火性液体（施行規則第194条危険物告示別表第1）
港則法	: その他の危険物・引火性液体類（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表）
道路法	: 車両の通行の制限（施行令第19条の13、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2）
化学物質排出把握管理促進法 （PRTR法）	: 非該当

16. その他の情報

参考文献 : 社内データ、ECHA（欧州化学機関）データ、文献、データベース等

このSDSはJIS Z 7253(2019)に準拠する。この安全データシートに記載されている情報は、その発行日時点において、我々が知る限りにおいて、および信じるところにより正確であることを証明する。ここに記載する情報は、安全な取り扱い、使用、処理、保管、運搬、廃棄、および放出を安全に実施することを目的としてのみ提供されており、保証または品質仕様を表しているものではない。この情報は、指定された特定の物質にのみ関連するものであり、何らかのプロセスで指定外に他の物質と共に使用した場合、その妥当性は排除される。